

営農計画作り任せて

支援システム「Z-BFM」 広く活用促す Jグループ山形

町で実演・相談会を開く。農業法人や中核的担い手の他、J Aの営農指導担当者が担い手の状況やニーズに応じた営農計画作りを支援できるように、広く活用を促していく。

J Aグループ山形地域・担い手サポートセンターは11、12の両日、J A全農と農研機構が共同開発した営農計画策定支援システム「Z-BFM」の活用推進に向け、三川

11、12の両日 三川町で実演会



ファーム吉田で「Z-BFM」を試す関係者

「Z-BFM」は、面積や労働人数などの経営状況、品目別収量や生産費などの営農条件を入力すると、所得が最大となる

同センターは、現場での活用を検証するため、J Aがえ西村山を通じて河北町の農事組合法人ファーム吉田に協力を依

頼。手作業で策定した2016年の営農計画を「Z-BFM」に取り込んで、試験的に利用している。
同法人の佐藤勝良代表は「経験や電卓などによる計画作成に比べ、試算が簡単にでき、特に新規作物の導入などを図る場合に、営農計画を作りやすい」と話す。同センター

は、ファーム吉田での17年の営農計画策定に向け、試験を継続。県営農指導員協議会や県地域営農法人協議会の会員向け研修会も計画する。県も「Z-BFM」の活用研修会を開く計画で、J Aグループと共通の担い手支援ツールとして、認識の共有化を図る。

実演・相談会は、J A全農山形主催の総合展示会「わくわく農業心援祭ビッグフェア」で、同センターのブースを設けて開く。問い合わせはJ A山形中央会農業農政部内の同センター、(電)023(634)8114。